

令和 4 年 6 月 16 日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00423

研究課題名（和文）イギリスロマン主義期における百科の思想と出版

研究課題名（英文）The philosophy of encyclopedias and the book publication in the English Romantic era

研究代表者

石倉 和佳（Ishikura, Waka）

兵庫県立大学・環境人間学部・教授

研究者番号：10290644

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は18世紀末から19世紀前半のイギリスにおける百科類や百科事典の編集および出版を、文学思潮としてのロマン主義の展開と相互に関連するものと捉え考察したものである。百科事典に見られる知識を一つの形態に包括的に取りまとめる営為には、蓄積された様々な情報を貪欲に説明しつくそうとする心的傾向が読み取れる。本研究では百科事典の編集プロセスや個別項目の検討を行ったが、特にその中で見られる情報の過剰と不均衡がもたらす確からしさの錯誤の有様に焦点を当てた。百科類の出版編集が多種多様な読者層を得て出版文化の中で定着していく中、編集された知識には断片化や恣意的な要素を排除し得ない点明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

膨大な文字情報が蓄積される中、それを知識として利用する際に恣意性が問題となることは現代においても同様である。本研究を通して、知識の情報化（もしくは情報の知識化）ともいえる現象がイギリスにおいて明確な社会的現象となったのはロマン主義期であると理解できる。知識の断片化による確からしさの強度の劣化にどのように対応するかという点が課題であるが、これは印刷物の現象であるのみならず、電子情報においても当てはまると考えられ、この点が本研究の現代的な側面であると見ることができる。

研究成果の概要（英文）：This study investigated the encyclopedias of various kinds published in book form in the Romantic era, from the last decade of the 18th century to the early 19th century, considering these flourishing encyclopedias as reflecting the development of literary romanticism. Editing massive amounts of information from printed letters into a body of knowledge seems to exhibit a mind-set that absorbed anything explicable to the greatest extent possible. This study analyzed the publishing ventures of various encyclopedias and their editing processes, as well as individual encyclopedia articles, focusing on the excess and imbalance of information to be used in them to reveal editorial ambiguity and disorder. In the Romantic era, many encyclopedias were read by a wide range of readers, and their knowledge could not escape fragmentation and arbitrariness.

研究分野：イギリス文学

キーワード：百科事典 出版史 イギリスロマン主義 博物学 航海記

1. 研究開始当初の背景

イギリスロマン主義期における百科事典の製作および出版プロセスについて、ロマン主義研究として独自に取り上げられることはこれまでほとんどなかった。百科事典の出版は、スコットランド啓蒙主義思想によって説明されることはあったが、拡大する出版文化とともに考察されることは少なかったのである。18世紀以降、各種事典や辞書、人物伝、文学作品のアンソロジーなど、情報集積と選択を編集の要諦とする出版物が多く流通するようになっていた。イギリスにおいては、百科事典はE.チェンバースの『サイクロペディア』(1728)が刊行され、フランスの『百科全書』のモデルともなった。

18世紀前半に出版された百科類は出版当時の知識の編纂を主な目的としており、新しい情報とともに再編集され改版を重ねるということは少なかった。改版を繰り返し常に新しい知識を盛り込もうとする編集姿勢を明確に持ったのは、1768年に出版が開始された『ブリタニカ百科事典』である。初版は3巻本であったのが、第3版では18巻本となり、その後続く『ブリタニカ』のひな型となった。もっとも学術的な面で野心的であったのは、M.ネイピア(Macvey Napier)の編纂による第5版への補遺版である。ここにはポリティカル・エコノミーに関する大部の論考が収録されるなど、新しい学問領域に広く目が向けられている。ネイピアは第7版の編集責任者にもなり、この時には地理学的な知識が大きく盛り込まれるようになった。『ブリタニカ』とともにロマン主義期の重要な百科事典として『ロンドン百科事典』がある。また、S. T. コールリッジが編集方針の策定に関わった『メトロポリターナ百科事典』も重要なものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、各種百科の出版の隆盛によってもたらされたロマン主義的営為としての百科出版の現象を、具体的な事例に基づいて解析し、その特徴を明示することである。本研究ではまず、ロマン主義期にイギリスで発刊された百科事典類を時系列に追う形で検討し、知識を纏めて提示する営為である百科の編集方針や内容を考察した。まず最初に、百科事典のどのような項目が本研究の対象として相応しいかを検討した。『ブリタニカ』各版で科学的項目と地理的項目の取り上げられ方がどのように変化しているかを調べた。地理的項目のうち太平洋に関する事項が第5版補遺版から各段に詳しくなっており、第1版から第7版までを比較検討すると記述されている内容の変化が激しく編集姿勢の変化も見られたため、この項目が当時の百科編集の傾向を見るのに最も適しているのではないかと考えた。結果、本研究で論文として取りまとめたものの多くが太平洋地域、特にハワイを対象とするものとなった。地理的項目以外の科学的項目の検討は2年目以後も続けたが、本研究の趣旨に照らして、有益であると考えられるものは少なかった。

また、コールリッジが編集方針を示した『メトロポリターナ百科事典』について、具体的な考察を纏めるに至らなかったが、コールリッジの教育論の考察において、彼の方法論の読解を試みた。

3. 研究の方法

本研究におけるテキストは、主に次の3つの種別に分かれる。インターネットから収集した、『ブリタニカ百科事典』初版から9版までの全巻、『ロンドン百科事典』(1829)、『メトロポリターナ百科事典』の全巻、および『リーズ百科事典』、『ペニー百科事典』などの全巻。大英図書館において閲覧した『ブリタニカ百科事典』第5版補遺版等の書籍、およびネイピア、海軍事務次官であったジョン・バロー関係の資料。18世紀末から19世紀にかけて出版された旅行記。代表的なものとして、クックの三回の太平洋探検航海の記録群、クック航海記各種、クックの伝記作品、研究書、バンクーバー旅行記および同時代旅行記がある。これらに加えて、関連書籍や論文も収集して論文制作の際の参考とした。

4. 研究成果

次には主な研究成果について、主な3つの発表論文を中心に記述する。

まず、『ブリタニカ』第3版から第7版までに現れた太平洋諸島の項目を比較検討し、「記述することの空白：『ブリタニカ百科事典』の描くハワイ」にまとめた。ポリネシア(Polynesia)という太平洋諸島が点在する地域を指す語は19世紀初頭に用いられるようになったが、『ブリタニカ』は百科事典としていち早くこの用語を採用し、太平洋地域の包括的名称として利用している。第5版補遺版になって、ジョン・バローが筆者となりポリネシアの項目を執筆した。クックが殺されたハワイはバローのような海軍関係の人物にとっては屈折した感情を抱く対象であったと思われ、バローの描くハワイは淫猥な女たちやおぞましい迷信に満ちた未開の地という印象を読者に与えるものである。キリスト教が人々を矯正しつつあるという記述によって、ハワイを道徳的に墮落した土地としてキリスト教の必要性を説く「宣教師の語り」の初期のものとも考えられる。

ロマン主義期の時代のハワイがどのような状況であったのかを調べるために、ヨーロッパ人として初めてハワイに上陸したクック探検隊の旅行記およびクックの死に関わる書籍を検討し

た。その中で、海軍によるヌートカ湾への派遣と北西航路の調査の途上ハワイを3度訪れ(1791-1795)、当時ハワイ島を統治していたカメハメハとの交流を持ったジョージ・バンクーバーが重要であることが分かった。バンクーバーは、ロマン主義期の研究書にはほぼでてこないが、これには王立協会会長であったジョセフ・バンクスとの負の影響があることが分かった。日本語文献において紹介されることがほとんどないため、人々の記憶から消えたバンクーバーについての同時代資料に考察を加え、バンクーバーの世界一周調査航海の内容、およびバンクーバーの来布について記述のある奥村多喜衛の『太平洋の樂園』(1917)を検討した。バンクーバーについてのより正確な情報を把握するということは、『ブリタニカ』の記述がいかに歪曲したものであるかを照射することになった。この研究は「忘却と追憶：ジョージ・バンクーバーの太平洋航海」として纏めている。

ハワイについての百科事典の記述の内容としては、『ブリタニカ』だけではなく『ロンドン百科事典』(1829)も検討した。この百科事典のハワイの項目の筆者は特定できていないが、おそらくバンクーバーの訪問以後しばらくたった頃にハワイに滞在したことがある人物であり、バンクーバー隊がカメハメハにハワイをイギリスに割譲する約束をした点が強調されている。バローの筆がハワイの人々の道徳性を貶めることに腐心しているように読めるのに対して、『ロンドン百科事典』の筆者は、ハワイの人々の生活ぶりについて共感をもった描写をしている。同時期の百科事典の同じ項目の記述がこれほど違うということは、太平洋諸島の状況の描写には記述者のもつ特定のバイアスや知識の限界が常に存在したことが考えられる。訪問者によって体験の質が異なっていたこと、参考にした書籍が一樣ではないことも影響しているだろう。『ブリタニカ』の太平洋地域の記述の客観性は、本研究で調べた時代においては断片的にしか存在しない。

百科事典の筆者たちが決して詳しく書こうとしないのが、ハワイを襲った伝染病の話である。クックの第3回航海に同行したキング海尉は日誌の中に梅毒に侵された人々の姿を描写している。しかしそうした観察が公にされることはほとんどなかった。ハワイは各種の伝染病の蔓延によって大きく人口を減らした。19世紀前半の百科事典に描かれたハワイ社会は、断片的な描写と臆見に満ちたハワイの人々の不道徳を糾弾する姿勢を通して、逆説的であるがハワイの現性を強く印象付けている。本研究ではこうした百科事典やその他ハワイを語る言説にみられる語りを分析したが、そこにはしかしその社会も19世紀の末には人口激減をうけて消滅の危機に瀕するという状態となった。クックの来訪以来、ハワイの人口がどのように見積もられ、またハワイ社会がどのように描かれ続けたかについて「18世紀末から19世紀初頭のハワイ諸島における病と死：ハワイはいかに語られたか」にまとめた。この論考は、本研究のテーマに加えて西洋の伝染病が「未開」と考えられる地域の人たちにどのような壊滅的な影響を与えたかという問題を取り扱っているが、百科事典の記述にみられるような断片的かつ恣意的なハワイの説明によって、ハワイの伝統社会の壊滅が見えにくくなったことは推測できる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 石倉和佳	4. 巻 2
2. 論文標題 忘却と追憶：ジョージ・バンクーバーの太平洋航海	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 カルチュラル・グリーン	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 石倉和佳	4. 巻 1
2. 論文標題 記述することの空白：『ブリタニカ百科事典』の描くハワイ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 カルチュラル・グリーン	6. 最初と最後の頁 25-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 石倉和佳	4. 巻 22
2. 論文標題 コールリッジの教育論 方法の原理から読む	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 兵庫県立大学環境人間学部研究報告	6. 最初と最後の頁 17-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Waka Ishikura	4. 巻 54
2. 論文標題 Sara and Arabella Lawrence: Some Biographical Notes on S. T. Coleridge and Sir W. R. Hamilton	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Coleridge Bulletin, NS	6. 最初と最後の頁 41-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石倉和佳	4. 巻 24
2. 論文標題 18世紀末から19世紀初頭のハワイ諸島おける病と死 ハワイはいかに語られたか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 兵庫県立大学環境人間学部研究報告	6. 最初と最後の頁 101-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石倉和佳	4. 巻 3
2. 論文標題 高貴な野蛮人はいない - ハワイの「王のmant」をめぐる消息	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 カルチュラル・グリーン	6. 最初と最後の頁 47-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計2件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 石倉和佳
2. 発表標題 コールリッジの教育論 思考の働きはいかにあるべきか
3. 学会等名 イギリス・ロマン派学会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Waka Ishikura
2. 発表標題 John Keats and Coleridge's Principles of Method—On Their Encounter in 1819
3. 学会等名 Internationa Conference on Romanticism, Manchester (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 石倉和佳他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ブックウェイ	5. 総ページ数 96
3. 書名 カルチュラル・グリーン第2号	

1. 著者名 石倉和佳他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ブックウェイ	5. 総ページ数 91
3. 書名 カルチュラル・グリーン 第1号	

1. 著者名 石倉和佳他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学術研究出版 (Bookway)	5. 総ページ数 98
3. 書名 カルチュラル・グリーン 第3号	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	深川 宏樹 (Fukagawa Hi roki) (00821927)	兵庫県立大学・環境人間学部・准教授 (24506)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------